

1. **新世言「情報は正しく伝える」** 丸山敏秋 倫理研究所理事長 (P10~13)  
「伝言ゲーム」は次々伝言して行くと、最初とは違った内容になってしまうのが面白い。その変形の原因は、記憶違いや勝手な憶測にある。ゲームならば笑って済ませられるが、仕事や日常生活で変形が起きたら、とんでもない事態を引き起こしかねない。口頭ではなく文章にすれば防げるというものでもない。何と厄介なことか。便利な世の中、倫理の根本「自分にとっても他者にとっても、同時に善しとされる生き方・在り方」が大事です。
  
2. **特集「沙漠緑化で国際貢献」** 80歳から97歳までモンゴルで植林・遠山正瑛博士 (P14~29)  
やればできる。やらねばできない。続けさえすれば成功。止めた時が失敗だ！（継続こそ力なり）当時91歳の遠山博士が、一人黙々とスコップをもって植林されていました。あれから、倫理研究所がクブチ沙漠で植林を始めて18年になります。クブチ沙漠に約33万本（今では人口千名を超える開発モデル地域）平成27年度からは、ウランブハ沙漠に植林のステージが移り、第二の「地球倫理の森」に育てていくのが使命と捉えています。
  
3. **実践の軌跡 1「長男が教えてくれた、妻の心」** 山本律子さん（48歳・大阪市） (P38~45)  
高1の長男が不登校になり、生活倫理相談を受けました。不登校は、両親がお互い向き合っていないこと、本（親先祖）に繋がっていないことを示す、長男のSOSであることがわかりました。
  
4. **実践の軌跡 2「一切を捨てる覚悟で、息子に事業継承」** 木所勝邦さん（72歳・川崎市） (P46~53)  
240億円という莫大な借金を背負い「倒産」「自殺」といった言葉が頭を駆け巡りました。その時支えになったのが倫理法人会での学びでした。「得るは捨つるにあり」（万人幸福の業・第12条）大窮地に陥った時こそ、一切を捨て、出来ることをやろう！ 東日本大震災の時も被災者支援をさせて頂き、妻や家族や社員の支えや公的支援に恵まれて、平成26年借金を完済。従業員150名と共に、楽しく喜んで無借金経営で働いています。  
『人が一度決心をすると、周りの状況は一変する。龍は雲を呼び、虎は風を起こす。自ら最適な状況を造ろう！』
  
5. わくわく子育て親育ち**「大人を良く見ている子供たち。良い行いを示しましょう！」** (P55.56)  
集団登校の小学生9人の列に、酒気帯び運転の軽トラックが飛び込み、73歳の見守り隊の男性が身を挺して児童を守り、翌日亡くなられました。実は、このMさんは33年前、事故現場の近くで7歳の次女を交通事故で亡くされています。Mさんは事故後、子供たちを動揺させまいと「大丈夫か？」と、怪我した子供達を気遣っていたそうです。「凄いおじいちゃんだね！僕もそういう強い人になる！」小2の次男は感激していました。
  
6. 教育創生フォーラム in 高知 **「自己肯定感をどう育むか？ 私たちに出来ること」** (P56~59)
  - ・自己肯定感は、両親に愛され祖父母に可愛がられて育つ中で、自然と芽生える。幸せになる重要なテーマです。
  - ・子供達に自信をつけるお手伝い。明るく楽しく根気良く、何事もやり通す、自立した人間になることです。腰骨を立てる。挨拶は先手ではっきりと。返事は「はいっ」と気持ちよく。立ったら椅子を入れ。履物揃える。「咲いた花見て喜ぶならば、咲かせた根っこの恩を知れ」即ち、両親に対する感謝の心や恩意識を育みましょう。
  - ・不登校の問題の根は、自己肯定感が失われ、親子の信頼関係、絆の弱さです。 晩ご飯を一緒に食べましょう。
  - ・「家庭の薫化」温かく穏やかで和やかな澄み切った空気の家づくり。「生まれてきてくれてありがとう」
  
7. 古典を旅する⑦「日本の源流を尋ねて」 能楽師・安田登氏 (P72~75)  
**和歌には**、「天地」や「鬼（先祖の霊）神」までも感動させるし、通常ではどうにもできない相手の心を和らげ動かすこともできる。仏像彫刻は、木の中に隠れている仏様を現出させる行為。和歌を作るのも同じことです。  
平成29年6月15日 一般社団法人倫理研究所 家庭倫理の会小田原 岩見正樹 TEL0465-48-2922